

中小企業の成長を妨げる ルーティンワーク

攻めの一手は 経理部門の業務改革にあり



— 企業改革のプロが太鼓判を押す経費精算IT化の有用性 —



中小企業は、日々の煩雑な業務に追われ能力を発揮できていない——。

多くの企業改革に携わってきた富永英里税理士は、企業が構造を変えるためには、まず経理業務、とりわけ「経費精算業務」の改革から着手することが最適だと訴える。

そんな同氏がこのほど、経費精算業務のボトルネックを解消するラクスのクラウドサービス「楽楽精算」を体感。その有用性を同社クラウド事業本部長の井上英輔取締役と語り合った。

経理改革で会社は変わる 精算業務の改善が急務

富永 私はこれまで1000人以上の経営者の方々とお会いしましたが、多くは資金繰りや雑務に追われ、自社の本来の業務に注力できていません。そこで私は、改善策を考えていく上で、まず最初に経理部門の改革を行うよう助言しています。経理部門は、月次の試算表を迅速に作り、経営上の問題点や伸びている事業などを把握して会社の未来を予測するのが本来の仕事。こうした「攻めの経理」を行うようになれば、会社はドラスティックに変わります。

ところが、多くの企業が経理部門に十分な人数を配置する余裕がなく、過去に発生した数字の処理、特に社員の経費精算業務に時間を奪われるという状況に陥っています。そう考えていたとき「楽楽精算」を知り、「これならば!」と。

井上 経費精算は重要な経理業務の一つですが、申請者にはかなりストレスがたまる作業です。特に、小さな会社では、手書き伝票での申請はもとより、エクセルに申請データを入力しても、プリントして「申請書」

として提出するだけで、それを経理がシステムに再入力、という二度手間も多いようです。

富永 経費精算業務は、定期的に発生し、単純でありながら煩雑。滞りやすく計算ミスも発生する。それがさらに作業を煩雑にするという悪循環を生みます。これが積み重なって月次決算が遅れ、経営の妨げに——。決して大きな話ではありません。

井上 実は、当社もかつて同じ問題を抱え、経費精算業務の効率化を模索しました。そこで出た結論が「定常的な作業はITで」「人は考える仕事を」だったのです。

数年前、当社は社員100人に経理部門は2人。月初の長時間残業が常態化していました。そこでまず、ボトルネックの経費精算申請という「作業」をIT化しようと考えたのです。

作ったシステムを実際に運用してみると、経理部門の負担減はもちろん、営業部門などの業務効率化にもつながり、その結果として、全社的に生産性が向上しました。それを商品化したのが「楽楽精算」なのです。





定常的作業はITで。人は考える仕事を——井上

**すでに400社が導入
市場ニーズはさらに拡大**

井上 「楽楽精算」は経費精算における「申請」→「承認」→「精算」という一連の業務フローをすべて電子化するシステムで、現在、約400社でご利用いただいています。紙の伝票やエクセルでの経費精算を「楽楽精算」に切り替えたところ、「経費申請時間が3分の1に短縮した」「経理で月に4日かかっていた確認作業が数時間になった」「5人でやっていた作業が2人で済むようになった」など多くの反響が寄せられています。

富永 導入する企業の規模、業態の特徴などはありますか。

井上 従業員数では30〜300人規模が多数です。業種では、営業など外出する仕事をする人が多い業種での導入が目立ちます。経費精算のIT化を実現している企業は、企業全体の20%ですが、ここ数年で急速に普及しています。「楽楽精算」へのお問い合わせ件数も、2013年は年間で前年の1.7倍に増えるなど、経費精算業務を改善しようとしている企業が増えています。

ることを実感しています。経費精算は、あらゆる業種業態の企業のほぼすべてに発生する業務です。先見性ある企業はすでにこのような定常的作業の改革に着手しており、今後、「楽楽精算」の導入数は、さらに拡大すると予測しています。

実績・月額40万円のコスト削減効果を3万円で実現

富永 中小企業は新規のIT投資をする資金的余裕のないケースが多いのですが、「楽楽精算」は月額3万円（税別）からという低コストで利用できますので、導入を勧めやすい価格設定だと思っています。

井上 当社も「楽楽精算」導入前は、経費の「申請」→「承認」→「精算」という一連の業務フローをほとんど人の手で行っており、試算したところ、人件費込みで月額50万円もの業務コストがかかっていました。ところが、この業務フローを電子化することで効率上がり、かつ、誤入力や計算間違いなどの人的ミスを防ぎました。経費精



ラクス
クラウド事業本部 部長
井上英輔 取締役

算で最も経理への負担となるのが、財務会計ソフトに入力するための仕訳と銀行振り込みのためのデータ作成作業ですが、「楽楽精算」は、担当者からの申請を基に自動でこれらのデータを生成するので、経理部門の定常的な作業が大幅に削減され、人件費換算で月額40万円程度のコストカットが実現しました。

その他にも、交通費は、内蔵の乗り換え案内ソフトが自動的に入力してくれます。また、日常的に発生する交通費は、スマートフォンからも申請できるよう最適化された入力画面も用意しました。帰りの電車の中などちょっとした隙間時間で交通費の整理ができてしまいます。このようなサービスが、月3万円（税別）からご利用いただけます。

富永 例えば外出先から直帰しても、その日のうちに経費申請できれば経理処理の効率化はさらに進むと思いますが。

井上 もちろん、クラウドを使ったサービスですから経費申請の場所を選びません。また、日常的に発生する交通費は、スマートフォンからも申請できるよう最適化された入力画面も用意しました。帰りの電車の中などちょっとした隙間時間で交通費の整理ができてしまいます。このようなサービスが、月3万円（税別）からご利用いただけます。

富永 井上さんのお話のように、



経費の「申請」→「承認」→「精算」のフローがビジュアルでわかるクラウドサービス「楽楽精算」のインターフェース。機能や処理ステップが一目瞭然。左は、スマートフォン用に最適化された入力画面

経理が変われば、会社はドラスティックに変わる——富永

経理担当者の大きな負担の一つが仕訳データの作成です。多くの中小企業ではここに時間と労力が割かれています。私は、すでに財務会計ソフトを導入している企業こそ「楽楽精算」を使って経費精算の行程をすべて自動化することが、最も効果的だと思っています。

井上 「楽楽精算」は、会計処理に必要な交通費などの数字を正確迅速に集めるツール。一方、財務会計ソフトは、集めた数字を使って会計処理と財務分析をするための使うものだから、両者の連携で業務効率は格段に上がります。ですので、その点には十分配慮しました。また、ほぼすべての財務会計ソフトとも連携可能です。

富永 では、「楽楽精算」を導入するに当たって、企業がやり方を変えるべき点がありますか。多くの企業は、それまでのやり方を変えることに抵抗を覚えるものですが。

井上 入力時、後処理時のストレスを減らすべく、企業が現に紙の伝票やエクセルで運用している書式をできる限り似た形で再現できるように配慮しました。今まで使っていた名称や科目の並び順などが変わると、特に交通費などの申請をする側の営業担当者などは不便を感じます。承認経路や帳票レイアウトなども従来と変わらないように自社でのカスタマイズが可能なので、個々の会社の個別具体的な業務フローをそのまま再現できます。

富永 定期的な経費申請を社員に促す際には、疲れない操作性なども重要だと思います。

井上 例えば事前申請と事後申請のボタンを色分けしたりして、

入力画面のボタンの配色などにも工夫を凝らしました。どの品目か一目でわかるようにアイコンのデザインも考慮しました。

富永 社員の経費精算作業へのストレスがなくなれば、経理業務の効率は大きく改善し、作業時間が削減できます。その分、経営数字の検証など本来注力すべき仕事の時間を増やせば、企業は必ずよい方向に向かいます。

私の信条は、「人を幸せにする会社」を増やしていくこと。

富永 経理の改革をきっかけに全社の業務効率を見直すことで、社員のワーク・ライフ・バランスが充実します。これは、中小企業にはとても大切です。社員がモチベーションが上がれば、業績も向上するといふ好循環が生まれます。この循環を生む第一歩が、「楽楽精算」での経費精算業務の改善だと思っています。

「楽楽精算」導入のケーススタディをオンライン漫画で公開中!

経費精算業務の効率化は、企業をどう変えるのか。富永英里税理士が大活躍するケーススタディをダイヤモンド・オンラインから漫画でご覧いただけます。



<http://diamond.jp/articles/-/49107>



富永英里税理士事務所
合同会社 代表

富永英里 税理士

1995年税理士登録。1000人以上の経営者と会い、「人を幸せにする会社づくり」をテーマに企業の改革や再生に従事。全国の商工会議所や銀行などで講演多数。会計や税金に関する著書は20冊以上。

<http://www.eri-tominaga.com/> (ホームページ)
<http://ameblo.jp/eritominaga> (公式ブログ)

富永 使っている財務会計ソフトに合わせて勘定科目などを自由にカスタマイズできる機能は、特によく考えられているなど感

富永 使っている財務会計ソフトに合わせて勘定科目などを自由にカスタマイズできる機能は、特によく考えられているなど感

富永 使っている財務会計ソフトに合わせて勘定科目などを自由にカスタマイズできる機能は、特によく考えられているなど感

英里's NOTE 経営改革に即効性「楽楽精算」のうれしい機能

タイムリーに月次試算表を作り、早い段階で問題点を分析・解消しておくことは中小企業の生命線です。また、新たな事業計画も、財務的な裏付けがあってこそ実現するというもの。経理改革はまさに経営改革そのものです。でも、決して構える必要はありません。まず、社員にとっては仕事の合間に申請する作業が、経理部にとっては計算ミスの確認や集計作業が面倒な「経費精算業務」を合理化するだけで、効果はすぐに表れます。

「楽楽精算」は、導入前後の効率の変化が目に見えるツールです。経理が最も苦勞する財務会計ソフトへのデータ入力は「楽楽精算」の連携機能によって効率化できますし、勘定科目などが自社の環境に合わせてカスタマイズできるので、業務フローが大きく変わることもありません。経費の申請者、承認者共に業務のステータスがわかりやすい画面設計、そして最大の特徴は、交通系ICカードの履歴がそのまま取り込めるので、申請時の入力ミスが解消できる点です。「楽楽精算」は、みんなが幸せになる会社づくりに大きく貢献してくれるでしょう。



【問い合わせ先】
株式会社ラクス
〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷5-33-8
サウスゲート新宿ビル3F
TEL:03-6675-3631

詳しい資料や導入事例紹介はこちらから

[楽楽精算](http://www.rakurakuseisan.jp/)

<http://www.rakurakuseisan.jp/>